

# 日本庭園像の形成

片平 幸 著

2014年6月刊行

「日本庭園」は西洋でどのように理解され、解釈されたのか、  
そして日本はそれに対してどのように反応したのか——

19世紀末から20世紀初頭の欧米人の日本庭園論、それへの日本人の反応、という両者の「往還」を丁寧にたどり、  
1930年代に至って日本庭園の「独自性」が規定されていく過程を追う。

A5判・240頁／定価:本体 4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1718-2

## 内容目次

### 序章 「日本庭園」に注がれる

西洋からの眼差しと日本側の応答

「日本庭園」の概念規定  
研究の対象  
本書の構成

### 第一章 ジョサイア・コンドルの日本庭園論

コンドルの日本庭園論  
ヨーロッパの庭園における「自然らしさ」の喪失／「型」と  
「型からの逸脱」——「理論」と「License」／思想性の不在  
——造形に対する理解とのタイム・ラグ  
コンドルの日本庭園論に対する国内の反応

### 第二章 日本の庭と欧米人の眼差し

モースのみた日本の庭  
——「観察」に基づく生活文化のなかの庭  
ラファージの見た日本の庭——「日常性」と「装飾性」  
チェンバレンとハーンの日本の庭理解  
——コンドルとの関係性を通じて  
日本の庭が何を表現するのかをめぐって／石の重要性につ  
いて／庭にまつわる迷信や言い伝えについて

### 第三章 欧米における日本庭園像の形成と

原田治郎の The Gardens of Japan

原田治郎の略歴  
原田治郎の日本庭園論  
原田治郎の庭園論の特徴／原田治郎の参照枠——岡倉天心の  
茶の湯論  
原田治郎の画像の特徴——写真のなかの日本庭園  
眼差しの変遷——コンドルの画像との比較／原田治郎の画面  
構成と広重の構図の比較試論／鹿苑寺(金閣寺)庭園と岡山  
後楽園の画像分析

原田治郎の及ぼした影響——国外と国内のギャップ

### 第四章 庭園をめぐる一九三〇年代の言説空間

明治期の庭園  
ジョサイア・コンドルと小川治兵衛  
庭園教育と研究環境の確立へ  
欧米からの眼差しへの「自覚」の芽生え  
——予兆としての一九二〇年代  
「欧米人」には理解できない「日本庭園」  
——一九三〇年代へ  
アメリカン・ガーデン・クラブの来日  
「国際性」と「独自性」の相克

### 第五章 日本庭園像の形成

——「独自性」と「芸術性」の確立へ  
日本庭園の理解をめぐる  
背景としての一九三〇年代  
一九三〇年代に形成される日本庭園像  
鼓常良の日本庭園論——「東洋美学」  
からみる日本庭園の独自性／美学と  
造園学のあいだ——重森三玲／重森  
三玲の庭園論／造園学者たちによる  
西洋向けの日本庭園論

### 最終章 西洋における日本庭園論の パラダイム・シフト

西洋からの眼差しと日本側の応答  
西洋における日本庭園論の  
パラダイム・シフト  
日本庭園像のゆくえ

あとがき／挿図出典一覧

## 日本庭園像の形成

片平 幸 著

Shibunkaku



SHIBUNKAKU

かたひら みゆき (本名:真鍋幸)……1971年生、ロンドン大学University College London修士課程修了(M.A. in Anthropology of Art), 2004年総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻後期博士課程修了, 学術博士. 国際日本文化研究センター機関研究員を経て, 現在, 桃山学院大学国際教養学部准教授. 専門は, 一九世紀末から二〇世紀初頭の日本と西洋の文化の交流, 日本文化研究.  
(主な論文)「庭園をめぐる「わび」「さび」「幽玄」——一九三〇年代における「幽玄」を中心に」(岩井茂樹・鈴木貞美編『わび・さび・幽玄——日本的なるものへの道程』, 水声社, 2006年, 449-482頁).

## 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行:思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	日本庭園像の形成		本体4,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1718-2
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			本書HPのQRコード		書店番線印

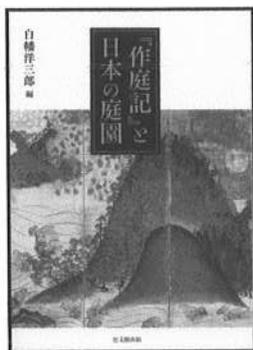
# 『作庭記』と日本の庭園

白幡洋三郎編

庭園は世界を映す鏡である。名園といわれる庭園はそれぞれ、人がどのような世界に生きてきたか、何を美と感じてきたかを雄弁にものごとっている一。

日本最古の作庭理論書として知られる『作庭記』には、中世の人々の作庭技術のみならずその背後に宿る思想・美意識が反映している。そうした着想から企画され、さまざまな専門分野からの意見を出し合い、議論し、「日本庭園を通した古代・中世的自然観」の発見を試みた国際日本文化研究センターのシンポジウム「日本庭園と作庭記」の成果。

▶A5判・364頁／本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1746-5



**春秋 京大和翠紅館 平安から平成まで 京の雅**  
木村幸比古・中根史郎・中村昌生著  
京都の老舗料亭京大和は、江戸時代には西本願寺別業であり、翠紅館と称された。その歴史・庭・建物や、カラー口絵と解説で紹介。特に、江戸時代の翠紅館の姿そのままに大正時代に建てられた建物や藪内流の茶室について、多数の図面とともに詳述する。  
▶B5判・80頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1417-4

## 近代日本の歴史都市 古都と城下町

高木博志編  
「古都」京都・奈良、「加賀百万石」の金沢、伊達政宗の仙台など、都市は実にさまざまな歴史性をまとっている。しかしそれらは、近代化の過程で発見され、選び取られたイメージであった。本書は「都市の歴史性」をキーワードに、分野を超えた研究者たちが参加した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代古都研究」班の成果。  
▶A5判・600頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1700-7

## 近代日本公園史の研究

丸山宏著  
近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。  
▶A5判・400頁／本体8,400円(税別) ISBN4-7842-0865-8

## みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編  
平安や桃山時代がしばしば話題になる歴史都市・京都は、実は近現代に大きく変わったまちであった。近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。2年にわたり『京都新聞』に平易な文体で連載されたものを再構成しまとめたもの。図版多数収録。  
▶A5判・268頁／本体2,600円(税別) ISBN978-4-7842-1378-8

## 逆欠如の日本生活文化

日本にあるものは世界にあるか

園田英弘編著  
西洋にあるものが日本にはない「欠如」という観点からではなく、出発点を日本においた「日本にあるものは世界にあるか」という新たな方法論に基づく文化比較。編者の提唱する方法論に基づき国際日本文化研究センターで行われた共同研究の成果14篇。  
▶A5判・404頁／本体3,800円(税別) ISBN4-7842-1248-5

## ジャポニスム入門

ジャポニスム学会編  
これまであまり紹介されなかった地域も含め各国別の個性的な展開をやさしく読み解き、さらに建築、音楽、写真、モードという絵画・工芸以外の分野におけるジャポニスムをも射程に入れ、ジャポニスムの全体像に迫る一書。ジャポニスム学会20周年記念出版。  
▶A5判・292頁／本体2,800円(税別) ISBN4-7842-1053-9

## 京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編  
京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容をよけて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。年表や関連図版などを付し、視覚的にわかりやすく解説。  
▶A5判・300頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1641-3

## 祭りのしつらい 町家とまち並み

岩間香・西岡陽子編／京極寛写真  
祇園祭・天神祭をはじめ、城端(富山県)や倉敷など各地の祭り飾りや造り物などをとりあげ、町家とまち並みを飾る祭りの文化を紹介。カラー60頁。【内容】座敷を飾る／絵画に見る祭りのしつらい／屏風祭りの戦後60年／祭りの住文化とまちづくり／都市祭礼の最前線 他  
▶B5判・224頁／本体2,200円(税別) ISBN978-4-7842-1360-3

## 近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編  
歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった。近代の京都には研究対象になる豊富な素材が無尽蔵にある。本書は、京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。  
▶A5判・628頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1413-6

## 岡倉天心の比較文化史的研究

ポストンでの活動と芸術思想

清水恵美子著  
明治時代に美術分野で活躍した思想家・岡倉天心の、特にそのポストンでの活動に焦点をあてて、彼の生涯の活動に通底する思想や、ポストン社会で成そうとしたことを、ポストンと日本における岡倉像を比較し、固定化され流布されている「岡倉天心」像を再検証する。  
▶A5判・548頁／本体10,700円(税別) ISBN978-4-7842-1605-5

## 近代工芸運動とデザイン史

デザイン史フォーラム編・藤田治彦責任編集  
「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす。【内容】ラファエル前派からアーツ・アンド・クラフツ運動へ／ドイツの近代工芸運動／柳宗悦と山本鼎／インドの手工芸と振興活動 他  
▶A5判・336頁／本体2,900円(税別) ISBN978-4-7842-1438-9

## 応用美術思想導入の歴史

ウィーン博参同より意匠条例制定まで

天貝義教著  
「美術を工業に利用すること、即ち実用と佳美を兼ねしむるに在り」と表現された応用美術。ウィーン万国博覧会から意匠条例が制定されるまで、応用美術思想がいかに学習され、明治期の美術・工芸界において指導的役割を果たしていったかを明らかにする。  
▶A5判・410頁／本体7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1505-8

## 写しの力 創造と継承のマトリクス

島尾新・彬子女王・亀田和子編  
二項対立的に「オリジナル」と「コピー」を捉え、模本を原本に劣るものとして考えるのではなく、日本美術における模写の伝統をさまざまな角度から再検討する試み。【内容】日本文人画における間画像性と写し／富士三保松原図の図様伝播／海を渡った法隆寺壁画 他  
▶A5判・278頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1711-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。